

にんようせい
妊孕性温存に関する質問をお持ちの
がん患者さんへ

—聞きたいことをきちんと聞くために—



この中には治療経験者の方からお聞きした「質問したい」「質問したかった」妊孕性温存に関する質問が書かれています

はじめに

医学の進歩により、がん患者さんの多くがより長年に生存できるようになってきましたが、病気や治療の影響によって子どもを持つ事が難しい場合があります。「生殖機能や不妊治療の事」はがん治療経験者の上位の悩みのひとつです。患者さんは妊孕性(妊娠する力)に関する情報をもっと得たいと感じている方が多くいる一方で何を誰に質問すればよいのかよくわからないという意見も聞きます。患者さんが十分な情報を収集し、理解したうえで今後の社会生活を送ることは大切です。2022年の「がん診療連携拠点病院などの整備に関する指針」においては、妊孕性温存療法、およびがん治療後の生殖補助医療に関する情報提供および意思決定を行う整備をすることが求められています。「第4期がん対策推進基本計画」では妊孕性温存療法の医療体制が明記されています。しかし、診断時は、治療開始までの猶予がなかったり、妊孕性の問題を理解する事が難しい年齢の方や、医学的に妊孕性温存が難しいといわれ悩んでいらっしゃる方もいると思います。

がん治療の前に妊孕性温存を考えている患者さんが十分な情報を収集し、疑問を解決できるように、質問リストを作りました。ここに挙げた質問は、多くの同世代のがん治療を受けた患者さんから得た妊孕性温存に関する質問です。このパンフレットが、医師との面談の際に、みなさんの情報収集や理解のお役に立てると幸いです。

2026 年4月

・厚生労働省健康局長。がん診療連携拠点病院の整備に関する指針 <https://www.mhlw.go.jp/content/000972176.pdf>
・Yuki Shirai, Maiko Fujimori, et al., Patients' perception of the usefulness of a question prompt sheet for advanced cancer patients when deciding the initial treatment: a randomized, controlled trial. *Psycho-Oncology* 21: 706-13, 2012.
・重要な面談にのぞまれる患者さんご家族へ―聞きたいことをきちんと聞くために― 国立がん研究センター東病院臨床開発センター 精神腫瘍学開発部, 2011 年 6 月.
・Christian Keinki, Annika Momberg, et al. Effect of question prompt lists for cancer patients on communication and mental health outcomes-A systematic review. *Patient Education and Counseling*.104:1335-46, 2021.

* 本パンフレットは文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C)23K09542「25 歳以下の思春期・若年成人がん患者を対象とした妊孕性に関する質問促進資材の有用性」(研究代表者: 大杉タ子)の助成を受けて開発されました。

* 本パンフレットの内容(文章・画像・図表等)の無断転写・転載・複製・改変・配布を固く禁じます。

* 本資料の著作権は研究代表者である大杉タ子に帰属します。著作権者の許可なく、内容の一部または全部を複製・転載・改変・配布することを禁じます。

手に取って読む前に

この冊子は、妊孕性温存に関する疑問を解決し、整理する助けになるとよいなと思い作りました。すでに説明を受けて理解している質問も書かれていると思いますが、説明を聞いて聞き足りなかった事、よくわからなかった事があれば、主治医や看護師さん、他、質問しやすい医療スタッフに尋ねてみましょう。質問したスタッフにとって、専門外の質問もあるかもしれませんが、解決方法を一緒に考えてくれると思います。

用語の説明

妊孕性	妊娠するための力で、卵子、精子、性機能、生殖器、内分泌(ホルモン)が関係します。よって、女性にも男性にもかかわります。
妊孕性温存	がんの治療や加齢によって妊娠する力が低下する可能性がある時、前もってその力を保存しておくことで、卵子、精子、受精卵、卵巣を凍結保存します
生殖補助医療	体外受精や顕微授精など、高度な不妊治療のことです
胚	受精卵

目次

パンフレットの使い方	4
使用例	4
質問リスト	5
A. 妊孕性温存について考える前に	5
B. がん治療と妊孕性について	5
C. 妊孕性温存の実際	5
D. 温存した精子や卵子等の利用について	6
E. その他	6
*他に尋ねたいこと	7
メモ欄	8

パンフレットの使い方

このパンフレットには、患者さんがよく尋ねる質問が並んでいます。医師との面談の前に、あなたが聞きたい質問の数字に○を付けてください。また、パンフレットにない質問があれば、“他に尋ねたいこと”の欄に、書き込んでください。

質問の内容は人それぞれ違いますし、どのくらい知りたいかも人によって違います。たくさんの質問が並んでいますが、中には聞きたくない質問やあなたにはあてはまらない質問もあるかもしれません。すべてを聞く必要はないですし、すでに医師から説明があった質問もあるかもしれません。一度の面談ですべての質問に答えてもらうことが難しい場合もあると思います。聞きたいことがすべて聞けたか、確認のためにもこのパンフレットを使っていただけると幸いです。

使用例

1. 質問リストを見ながらご自身のことについてどれくらい知っているか確認してみる
2. 質問してみたい項目があれば○をつけておく(下記参照)
3. その質問を聞いてみたい人をみつける(主治医や、看護師だけでなく、妊孕性に関する疑問には、いろんな医療従事者が関わります。産婦人科医、泌尿器科医、薬剤師、ソーシャルワーカー、心理士などです。主治医や担当看護師から紹介してもらうことも可能です。)*同じ質問を別の医療者に聞いてもらっても構いません
4. 聞きたいときに聞きたい内容を質問する
5. メモを取っておき帰ってからもう一度ご自身のことについて考えてみる
6. ふと思い出した時にこの冊子を開いてみる

例

A.妊孕性温存について考える前に

1. 病気の事で頭がいっぱいです 今決めないといけませんか？
2. 今はこどもを持つ事がイメージできません 他の方はどうしているのでしょうか？
3. パートナーがいなくても温存は可能ですか

質問リスト

A. 妊孕性温存について考える前に

1. 病気の事で頭がいっぱいです 今決めないといけませんか？
2. 今はこどもを持つ事がイメージできません 他の方はどうしているのでしょうか？
3. パートナーがいなくても温存は可能ですか

B. がん治療と妊孕性について

4. 妊孕性の意味を教えてください
5. これから受けるがんの治療は妊孕性に影響がありますか？
6. 同じ病気で妊娠している人はいますか？
7. 温存しなくても子供を持てる可能性(自然妊娠)はありますか？
それはどのくらいの確率ですか？

C. 妊孕性温存の実際

8. 妊孕性温存を優先すると治療に影響がありますか？
9. 妊孕性温存に年齢制限はありますか？
10. 妊孕性温存の成功率はどのくらいですか？
11. 同じ病気の方で妊孕性温存している人はいますか？
12. 温存はどこでどのようにするのでしょうか
13. どのくらいの期間が必要ですか？
14. それは痛みを伴いますか？
15. 妊孕性温存時にどのくらいの費用がかかりますか？

- 16. 妊孕性温存後凍結保管にどのくらいの費用がかかりますか？
- 17. 助成金など経済的支援は受けられますか？

D.温存した精子や卵子等の利用について

- 18. 温存した卵子や精子を使って子どもを持てる可能性はどのくらいですか？
- 19. 保存した精子や卵子を使って妊娠するまでの流れを教えてください。
- 20. 必要な手続きを教えてください
- 21. 治療の内容を教えてください
- 22. 生活に影響するような副作用はありますか？
- 23. 妊娠するまでどのくらいの期間がかかりますか？
- 24. 費用はどのくらいですか？
- 25. 助成金など経済的支援は受けられますか？
- 26. 今のパートナーと異なる人との胚(受精卵)は使用できますか？
- 27. 温存した精子や卵子、胚、卵巣はいつまで使えますか？

E.その他

- 28. 医師からの説明以外に情報を得る方法があれば教えてください
- 29. 患者本人がこどもで理解が難しい場合、どのように説明したらよいでしょうか
- 30. 自身の希望と家族やパートナーの意見が異なる場合に、相談できますか？

*他に尋ねたいこと

①

②

③

④

⑤

メモ欄

制作・編集

大杉夕子(兵庫医科大学 血液内科)

脇口優希(兵庫県立大学大学院 看護学研究科)

遠山義人(日本赤十字看護大学 看護学部)

多田雄真(大阪国際がんセンター 血液内科)

小澤美和(聖路加国際病院 小児科)

吉田沙蘭(東北大学大学院 教育学研究科)

脇本裕(兵庫医科大学医学部 産科婦人科)

池亀和博(愛知医科大学 造血細胞移植センター)

藤森麻衣子(国立がん研究センター がん対策研究所)

医療者のみなさまへ
ご利用のまえに一度お読みください



妊孕性温存に関する質問促進資材(Question Prompt List)活用をお願い — AYA 世代の患者さんの「聞きたい」を支えるために —

■ 質問促進資材(Question Prompt List; QPL)について

AYA 世代のがん患者さんにとって、妊孕性に関する問題は大切なテーマですが、診察室では医療者へ質問しづらい話題でもあります。本 QPL は、患者さんが安心して質問できるよう支援するためのツールです。

本 QPL は、**がん治療を経験された AYA 世代の方の声をもとに作成**されました。患者さんの「知りたかった」「後から困った」という経験を反映し、質問しやすい形式に整理しています。



■ 使い方(基本の流れ)

- ① 患者さんが手に取りやすい場所に設置する、もしくは医療者から QPL を渡す
- ② 患者さんが疑問を整理し質問項目を選択する
- ③ 質問を受けた医療者は真摯に対応し、必要に応じて専門職へつなぐ

■ QPL 活用における医療者へのお願い

- ・ 「このこと聞いてみよう！」と感じられる雰囲気づくりを！
すべてに一人に対応する必要はなく、橋渡しツールとしてご活用ください
- ・ 妊孕性は価値観が大きく関わるテーマです QPL をきっかけに、「この患者さんにとって何が大切か」を確認する対話をぜひ大切にしてください

■ 最後に

QPL は、患者さんが医療者とスムーズに質問・対話ができるツールです。

妊孕性温存について、患者さんが主体的に考え、選択できるよう、ぜひご活用ください。

* 本パンフレットは文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C)23K09542「25 歳以下の思春期・若年成人がん患者を対象とした妊孕性に関する質問促進資材の有用性」(研究代表者:大杉タ子)の助成を受けて開発されました。

* 本パンフレットの内容(文章・画像・図表等)の無断転写・転載・複製・改変・配布を固く禁じます。

* 本資料の著作権は研究代表者である大杉タ子に帰属します。著作権者の許可なく、内容の一部または全部を複製・転載・改変・配布することを禁じます。